

みずほマーケット・トピック(2020年2月14日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向 2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

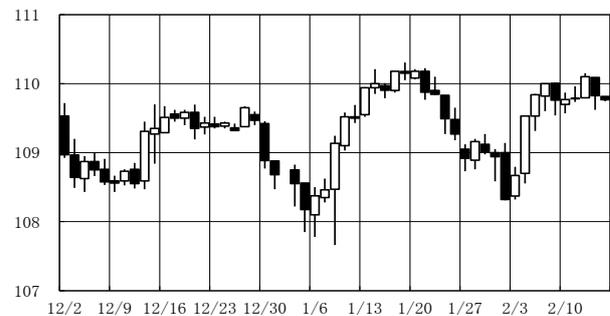
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は週半ばに 110 円を上抜ける展開。週初 10 日に 109 円台後半でオープンしたドル/円は、新型コロナウイルスが依然感染を拡大していることが嫌気され上値は重く、米金利の上下に伴い狭いレンジでの推移が続いた。11 日は、トランプ米大統領が米国政策金利の引き下げを主張したことでアジア株が上昇し、じり高の展開となったが、東京祝日で閑散取引の中、上昇は続かず、小幅に反落した。12 日はアジア株が底堅く推移しドル/円も堅調地合で推移した。その後、欧州株や米株先物の上昇を好感した円売りに一時週高値の 110.15 円まで上昇した。その後パウエル FRB 議長の議会証言を受けて小幅に下落したが、高寄りした米株や米金利の上昇に伴い、じり高の推移が続き、再度 110 円台を回復した。13 日は新型コロナウイルス感染例が急増し、109 円台後半まで下落。その後も上値の重い展開で、NY ダウ平均が一時 200 ドル超下落すると、一時週安値の 109.62 円まで下落した。本日は 109 円台後半での推移が続いている。
- 今週のユーロ/ドル相場は週後半に約 3 年ぶりの安値をつける展開。週初 10 日に 1.09 台半ばでオープンしたユーロ/ドルは、EU 圏経済の景気後退やドイツの政局不安などの懸念材料が燻る中、じりじりと値を下げ 1.09 付近まで下落した。11 日は、新規材料に乏しかったもののユーロ売りが加速し、昨年 10 月以来となる 1.09 を割り込んだ。12 日はユーロ/円の上昇に連れ高となった局面もあったが、ユーロ圏 12 月鉱工業生産の弱い結果を受けて上値の重い展開。その後は、米金利の上昇に圧迫され 1.09 を下抜け、EU 圏の冴えない経済指標のほか、ブレクジット交渉進展やドイツ政局への懸念が高まったことでユーロ/ドルは続落した。13 日は米金利の低下を受けて一時値を上げたが、新型コロナウイルスの感染拡大懸念で下落するユーロ/円に圧迫され下落した。その後も、英国でジャービッド財務相が辞任するとの報道を受け英政府が今後歳出を拡大する見方が強まったことでユーロ/ポンドに連れ安となり、一時 2017 年 4 月以来の安値 1.0834 をつけた。本日は週安値付近での推移が続いている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		2/7(Fri)	2/10(Mon)	2/11(Tue)	2/12(Wed)	2/13(Thu)
ドル/円	東京9:00	109.97	109.62	109.77	109.85	109.87
	High	110.04	109.88	109.96	110.15	110.09
	Low	109.53	109.57	109.73	109.78	109.62
	NY 17:00	109.76	109.77	109.79	110.10	109.83
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0981	1.0949	1.0910	1.0919	1.0876
	High	1.0985	1.0957	1.0925	1.0925	1.0888
	Low	1.0942	1.0908	1.0891	1.0865	1.0834
	NY 17:00	1.0944	1.0911	1.0916	1.0874	1.0845
ユーロ/円	東京9:00	120.74	120.04	119.75	119.94	119.49
	High	120.78	120.32	120.02	120.31	119.71
	Low	120.11	119.68	119.60	119.61	118.89
	NY 17:00	120.16	119.78	119.84	119.72	119.05
日経平均株価	23,827.98	23,685.98	-	23,861.21	23,827.73	
TOPIX	1,732.14	1,719.64	-	1,718.92	1,713.08	
NYダウ工業株30種平均	29,102.51	29,276.82	29,276.34	29,551.42	29,423.31	
NASDAQ	9,520.51	9,628.39	9,638.94	9,725.96	9,711.97	
日本10年債	-0.04%	-0.06%	-	-0.04%	-0.04%	
米国10年債	1.58%	1.56%	1.60%	1.64%	1.62%	
原油価格(WTI)	50.32	49.57	49.94	51.17	51.42	
金(NY)	1,573.40	1,579.50	1,570.10	1,571.60	1,578.80	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



## 2. 来週の注目材料

米国では、19日(水)に1月FOMC議事録が発表される。1月会合後、パウエルFRB議長は会見で米国の金融政策は当面適切である公算が高いと総括した。直近の数字を振り返ると、1月ISM製造業景気指数は昨年7月以来の50を超えとなったほか、1月雇用統計も米国労働市場の底堅さを示すものとなった。これらだけを見ると、足許の経済が堅調に推移し、パウエル議長が今年1年間、政策金利の据え置きを示唆したことにある程度蓋然性があるように伺える。しかし、昨年、利上げムードの中でも、結果として3度の利下げを実施したことを鑑みれば、足許の追加緩和材料の整理もしておきたい。まずは、新型コロナウイルスの感染拡大リスクがFOMC実施時よりも確実に深刻化していることだ。現在、震源の中国をはじめ既に経済成長の下方修正を施した国もあり、米国も状況を注視する姿勢を続けている。第二に、そもそも物価水準(FRBが重視するPCEコアデフレータ)が目標の+2%に達していない点で、パウエル議長も+2%以下の物価上昇が長く続くことを好ましく思っていない。第三に、今秋に大統領選を控える中、トランプ大統領が利下げ圧力を強めている点だ。FRBの独立性を脅かす過度な政治圧力が政策判断にどの程度の歪みを与えるかは定かでないが、FRBの運営にはプラスに働かないのは自明だ。このような材料がある中で、今後FRBは特に最初の2点について、経過観察とともに、場合によっては金融政策の見直しの必要が出てくる可能性もありそうだ。

本邦では21日(金)に1月全国コアCPIの発表を控える。12月は前年比+0.7%と11月(同+0.5%)を上回った。内訳を見ると、エネルギー価格のマイナス幅縮小と教育娯楽のプラス幅が押し上げに寄与し、一方、家庭用耐久財価格の伸びの鈍化がマイナス寄与となった。コアCPIは昨年を通じ、マイナスに落ち込むことはなかったものの、1%未満の緩やかな上昇に留まる状況が続く。これに対し、IMFは今週発表された報告書内で日本の今後の物価動向について、日銀が目標とする2%到達には遠いとし、足許の課題として高齢化による人口動態圧力への対応を挙げ、今後の物価上昇への筋道として特に労働市場改革の必要性を主張した。また、日銀の政策方針についても言及しており、日銀は引き続き緩やかな姿勢を維持すべきで、政策の持続可能性の検証と財政政策との連携を含めたポリシーミックスの必要性を述べた。

	本 邦	海 外
14日(金)	・12月第3次産業活動指数	・米1月輸出・入物価指数 ・ユーロ圏10~12月期GDP(速報)/就業者数(速報)
17日(月)	・9~12月期GDP(速報) ・12月鉱工業生産(確報)/設備稼働率(確報)	・米休場 ・ユーロ圏財務相会合(ブリュッセル)
18日(火)	—————	・米2月ニューヨーク連銀製造業景気指数
19日(水)	・1月貿易収支 ・12月コア機械受注	・米1月FOMC議事録 ・ユーロ圏12月経常収支
20日(木)	・1月工作機械受注(確報)	・ユーロ圏2月消費者信頼感
21日(金)	・1月全国CPI ・2月製造業PMI(速報)/サービス業PMI(速報)	・米2月製造業PMI(速報)/サービス業PMI(速報) ・ユーロ圏2月製造業PMI(速報)/サービス業PMI(速報) ・ユーロ圏1月CPI(確報)

### 【当面の主要行事日程(2020年2月~)】

- G20 財務相・中央銀行総裁会合(2月22~23日、4月16~17日)
- ECB 政策理事会(3月12日、4月30日、6月4日)
- 日銀金融政策決定会合(3月18~19日、4月27~28日、6月15~16日)
- 米FOMC(3月17~18日、4月27~28日、6月9~10日)

市場営業部  
チーフマーケット・エコノミスト  
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)  
[daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp](mailto:daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuohobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) [http://www.mizuohobank.co.jp/forex/econ\\_backnumber.html](http://www.mizuohobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html)

発行年月日	過去6か月のタイトル
2020年2月13日	それほど信頼できない「3月円高説」の実情
2020年2月12日	流動化し始めたドイツ政局～メルケル退陣まで1年半余り～
2020年2月10日	良好な雇用統計が浮き彫りにした市場の「甘え」
2020年2月7日	週末版(上がりそうにない原油価格～3つの理由と共にドル/円相場への含意を考える～)
2020年2月6日	改善が続く企業マインドをどう読むべきか
2020年2月4日	ボンド相場の現状と展望～遠すぎる物価「2%」～
2020年2月3日	プレジデントQ&A～アイルランド問題から漁業権問題へ～
2020年1月31日	週末版
2020年1月30日	FOMCを終えて～新型肺炎リスクと減速軌道の米国～
2020年1月29日	メインシナリオに関するリスク点検
2020年1月28日	デジタル通貨を巡る4大勢力～群雄割拠を読み解く～
2020年1月27日	疫病リスクと金融政策への影響などについて
2020年1月24日	週末版(ECB政策理事会を終えて～やや先走り感のあるラガルド総裁～)
2020年1月22日	日銀金融政策決定会合～「政熱終冷」という運～
2020年1月21日	ECB政策理事会プレビュー～底打ち機運に乗り静観～
2020年1月20日	米大統領選挙と為替～潜む一抹の不安～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年12月分)
2020年1月17日	週末版
2020年1月15日	「1998～99年」との違いはどこにあるのか～その②～
2020年1月14日	中国の為替操作国認定解除を受けて～ドル売り介入の催促～
2020年1月10日	週末版(「調達通貨は円よりユーロ」の答え合わせ～中東リスクを前に～)
2020年1月9日	予防的利下げの成否～「98年型利下げ」と「99年型利上げ」～
2020年1月8日	軍事衝突と原油高への考え方～円高は不幸中の幸いか？～
2020年1月6日	2020年、レンジ脱却に必要なもの～その②～
2019年12月25日	2020年、レンジ脱却に必要なもの
2019年12月24日	2020年の想定外はどこにあるのか？～6つの論点～
2019年12月23日	スウェーデン、マイナス金利解除の読み方～2020年への示唆～
2019年12月20日	週末版
2019年12月19日	米大統領選挙の左派リスクは2020年の波乱要因か？
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年11月分)
2019年12月18日	やはり上げを失ったボンド相場～政治も金融もボンドの足枷～
2019年12月17日	日銀金融政策決定会合プレビュー
2019年12月16日	英総選挙を終えて～「次の山」は2020年6月末に～
2019年12月13日	週末版(ECB政策理事会を終えて～フクロウ型総裁の「人となり」～)
2019年12月12日	FOMCを終えて～「タカ派の利下げ」から「ハト派の現状維持」～
2019年12月11日	円の基礎的需給環境～基礎収支に映る変化～
2019年12月10日	道標を失った為替市場～マイナス金利解除がキーに？～
2019年12月9日	英国総選挙の論点整理～事実上、「2度目の国民投票」～
2019年12月6日	週末版(2019年の為替市場を概観する～円は結局強かった～)
2019年12月5日	ECB政策理事会プレビュー～デビュー戦、3つの見どころ～
2019年12月3日	ドイツ政局の流動化について～メルケル退任まであと2年～
2019年12月2日	金融政策に環境配慮は必要か？～制御すべきは気候ではなく物価～
2019年11月29日	週末版
2019年11月26日	円安リスクの点検～「ツケ」が怖い2020年～
2019年11月25日	名目実効為替相場(NEER)で読む2019年のドル相場
2019年11月22日	週末版(ドラギ総裁、最後のECB政策理事会議事要旨～「結束(unity)」と財政政策～)
2019年11月20日	「ドル化した世界」で進む「金融政策の一本化」
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年10月分)
2019年11月19日	ドイツは底打ちしたのか？～リセッション回避も残る不安～
2019年11月18日	「株価の虜」と「予防的緩和」について考える
2019年11月15日	週末版(ラガルド体制の「overhaul(刷新)」ミッションの行方～総裁会見と投票方式について～)
2019年11月14日	欧州の「弱さ」源泉～輸出拠点が裏目にたドイツ～
2019年11月13日	円高予想の誤算と「ドル化した世界」という悩み
2019年11月12日	動かない相場の背景にある「円の不人気」
2019年11月11日	「公的デジタル通貨 vs. リブラ」の様相に
2019年11月8日	週末版
2019年11月1日	週末版
2019年10月30日	ラガルド新ECB総裁を巡る3つの論点
2019年10月29日	円安リスクの点検～欧州・中国の復讐はあるか？～
2019年10月28日	ドラギ総裁最後のECB理事会～危機の「生き字引」～
2019年10月25日	週末版
2019年10月24日	またも史上最小値幅～体感「5円」以下という異例～
2019年10月23日	「リブラ」阻止で一致するG20～ザッカーバーグ証言を前に～
2019年10月21日	思い出したい「10月31日」の経緯～次に起こることは～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年9月分)
2019年10月18日	週末版(2度目の離脱協定案合意～3つの論点を整理～)
2019年10月16日	FRBのTB購入を受けて～欲しかった「ずる賢さ」～
2019年10月11日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～議論紛糾の読み方、議事要旨としては秀逸～)
2019年10月10日	円相場の需給環境について～縮小均衡～
2019年10月9日	FRBの資産購入再開と懐かしのソロスチャート
2019年10月8日	揺らぐリブラ計画～初のメンバー脱退表明を受けて～
2019年10月7日	米9月雇用統計を受けて～「思ったより悪くない」の危うさ～
2019年10月4日	週末版(製造業から非製造業への波及は始まったのか～ISM景気指数の悪化を受けて～)
2019年10月3日	ユーロ圏の物価情勢の現状と展望～日本化の過渡期？～
2019年10月2日	ISM製造業景気指数の「底」は見えそうか？
2019年9月27日	週末版(三度起こった「ドイツの乱」～ラウテンシュレーガーECB理事辞任の読み方～)
2019年9月26日	円安リスクの点検～財政政策というアップサイドリスク～
2019年9月25日	為替相場の現状を概観する～REERを通して見えること～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年8月分)
2019年9月24日	「羊頭狗肉」化するマイナス金利政策
2019年9月20日	週末版(日米金融政策決定会合を受けて～9月乗り切るも日銀の難局は続く～)
2019年9月17日	「原油高&円安」が重荷になる日本経済
2019年9月13日	週末版(ECB政策理事会レビュー～出尽くし懸念強まるパッケージ緩和～)
2019年9月11日	均衡イメージが変わらない円の基礎的需給環境
2019年9月10日	日銀会合プレビュー～9月の一手と利下げの行方～
2019年9月6日	週末版(ECB政策理事会レビュー～APP再開は困難だが、露払いはいはしたいところ～)
2019年9月5日	プレジデントを巡る論点整理～ボンド/ドルは1.20割れ定着か～
2019年9月4日	米企業心理とドル相場との関係～ISM悪化を受けて～
2019年9月3日	リブラを全否定したメルシュ講演～不安はどこに～
2019年9月2日	消えない米国のドル売り介入観測について～諸刃の剣～
2019年8月30日	週末版